

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	Gordon Research Conference – Germinal Stem Cell Biology –での学会発表
氏名 Name	出口崇人
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	医学研究科 医科学専攻 博士課程3年
渡航国 Country	スペイン
渡航日程 Travel schedule	2025年 4月 26日 ~ 2025年 5月 3日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航では、2025年4月27日から5月2日にかけてスペイン・カステルデフェルス（Castelldefels）の Rey Don Jaime Grand Hotel にて開催された Gordon Research Conference (GRC) - Germinal Stem Cell Biology に参加し、ポスター発表を行うことを計画した。

本会議は、GRCの中でも生殖細胞という「種を継ぐ幹細胞」に焦点を当てたものであり、生殖細胞発生に関わる多様な細胞生物学的メカニズムに関して、世界中の第一線の研究者による分野横断的な議論が密に交わされる場である。

申請者は本会議において自身の研究成果を発表し、得られたフィードバックをもとに論文文化に向けた追加解析や、新たな視点からの議論の構築へとつなげることを主たる目的とした。また、他分野の研究者が注目する観点をすることで、自身の研究の発展性について広い視野から再考し、今後の研究戦略に反映させることも期待した。

成果 Outcome

渡航計画通り、本会議においてポスター発表を実施した。ポスターセッションは毎日約2時間設けられており、多くの主任研究者や博士課程の学生に対してプレゼンテーションを行うことができた。

申請者は、カニクイザル多能性細胞の生殖細胞分化能とエピゲノムの関連性について発表し、特にエピゲノム研究を専門とする研究者からは、解析手法やデータ解釈の妥当性に関する貴重なコメントを得ることができた。さらに、多能性細胞と関連の深いX染色体を専門とする研究者からは、申請者が確立した多能性細胞の培養法がX染色体研究にも有用であるとの評価を受け、今後の応用展開への期待が高まった。

また、本会議では食事時間中に自由に席を移動できたことから、国内外の主任研究者と気軽に交流する機会が多く、日本と海外における研究環境の違いや、博士取得後のキャリアパスに関する情報を得ることができた。同年代の研究者との会話も、単なるネットワーキングにとどまらず、申請者の短期的なキャリアビジョンをより具体化するきっかけとなり、非常に有意義であった。

今後の展望 Prospects for the future

本会議への参加と研究発表は、研究内容のブラッシュアップだけでなく、キャリア形成の面でも申請者にとって極めて重要な機会となった。申請者は、専門家から得たコメントを今後の論文文化および研究の発展に活かすとともに、会議を通じて得られた人的ネットワークは研究人生を通して大切に育んでいきたいと考えている。